

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400129		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム いなべの憩		
所在地	三重県いなべ市北勢町東村363番地2		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491400129-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元 年 10 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様と常に向き合い会社理念でもある「ご利用者様ファースト」を意識し個々の思いを傾聴しながら職員と共に暖かい家庭的な施設を継続しています。
職員全体の意識向上のために毎月の勉強会、事例検討会などを開催してサービスの質も維持できるよう心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

穏やかな風が優しく頬を撫ぜるような昔からの町並みの中に、平屋建ての落ち着いた建物の事業所が溶け込んでいる。事業所の中もテラスからの優しい光が利用者を包み込み、穏やかな時間が流れている。理念である「暖かい家庭的な事業所」を肌で感じられるのは、利用者への寄り添った介護の徹底、職員のチームワークの良さと自己研鑽の積み重ねにプラスして、会社の方針でもある全職員が共有できる毎月の研修の賜物と感じる。日々の介護に直結するような研修も豊富で、管理者を中心に熱心に支援に取り組んでいる様子に将来が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の会社理念が立てられ、「ご利用者様ファースト」を常に心がけ日々の介護業務に努め自施設の「暖かい家庭的の事業所」を継続しているよう努めている	玄関に会社の理念と事業所の理念が掲げられ、「暖かい介護とは・・・」の問いを常日頃考え支援にあたるよう心掛け実践している。家族アンケートからも「利用者の気持ちを汲んで世話をしている」との文面から事業所が日々理念を中心に取り組んでいる姿を感じる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の小学校との連携も継続し毎年の運動会等に招待を受け交流している。自施設で行われる夏祭りでは地域のボランティアの方たちと交流できる場を設けている	地域の特性により自治会への加入は難しいが自治会長や家族、民生委員の協力や小学校のボランティア、地域のボランティアなど地域との付き合いは密で事業所の評判も良い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括のボランティア担当者と連携を取りながら職場体験などの受け入れを積極的に取り入れ貢献し理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度必ず開催しており、話し合いの機会を広げている。他職種の方にも声をかけ今後話し合いの内容を広めるように働き掛けている	行政の担当者・自治会・家族などが参加し、年6回開催されている。事業所の現況報告・全体会議の報告などの後の質疑応答では、入居待ちの待機者が多いがその対応方法や徘徊時の対応など身近な質問もあり気楽に参加でき、会議が活かされている。	会社との協力体制も整い、利用者への取り組みも充実している。運営推進会議も定着し家族の信頼も厚い。更なる飛躍の為に会議内容や有識者、沢山の家族、近隣住民の参加に力を入れ取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最近地域包括や社協からの連絡も多く自施設の状況を伝えながら情報共有も密に継続できるように努力している	地域包括・社協など行政との連絡は毎週のようにあり、お互いが気楽に話し合い相談したり、協力体制が取れている。行政から依頼の大学生の実習生受け入れにも協力し、その学生から手紙を頂いたり良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け委員会中心に全職員で意識を持ち取り組んでいる。また事例検討会も全体会議などで行い重要性を考え職員の意識向上に繋がるよう努めている	会社から身体拘束だけではなく、コンプライアンスなど事例検討と言う形で例題文が毎月送られ、全職員参加でグループに分かれ検討し合い勉強している。虐待のポスターを目の付くところに貼り啓発にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを施設内に張り月1度の全体会議で勉強会などの開催を継続している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用してご利用者様は現在おりませんが今後の必要性も考慮し勉強会などを計画している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を元に詳しくご本人様、ご家族様に説明をし質疑応答を行い十分に理解、納得して頂くよう取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様と連絡を取り、意向や要望を受け入れるよう努力している。面会時や家族会、運営推進会議等を通し意見を傾聴できる機会を設け反映できるよう心がけている	家族の要望で玄関の外に柵がなく利用者がもたれると危険との事で自治会長が作って下さったり、職員が女性ばかりだからと力仕事なども手伝ったり、家族とショートメールが出来る環境でもあり、気楽に意見交換や連絡などが密に取れる関係が出来上がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設・運営に携わる担当を定め全体会議などで意見や提案を傾聴する機会を設けている。会議以外でも管理者、主任が職員の意見・提案・相談等いつでも受け入れられる態勢を心がけている	気付きシートに現場での希望・要望を会社へ提出し、運営に反映している。会社の代表も年2回事業所へ来て現場での意見や行事に参加し、事業所との関係性を大事にしている。また職員とは事業所の主任が3ヶ月毎に面接し話し合い、職員の気持ちに寄り添うよう務めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が定期的に面談を行っている。勤務体制や職場環境についても傾聴し個々の事情などを考慮し働きやすい職場になるよう整備し努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社での研修、外部の研修への参加、研修に必要な費用の支援など行い積極的に参加できるよう努めている。また各種勉強会などを施設内で開催し職員の意欲向上にも取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社協や地域包括が開催する協議会や研修などに参加しサービスの質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と介護支援専門員が本人様と必ず面接を行い施設見学も行っている。本人様の話を傾聴し会話の中から本人様の不安や悩み、要望など思いを汲みとり信頼関係を構築できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学して頂くとともに面談の時間を設け、これまでの経緯や介護の苦労話など傾聴し共感することで家族様に寄り添いこれからも共に支援していくという関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーやソーシャルワーカーなど関係各所から積極的に情報収集すると共に本人、家族様と面談を重ねニーズの把握に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当を決めヒヤリング等を行い話の内容から汲みこんだ事をレクや日頃の生活動作などを共に行うことで良い関係が築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、ご家族、施設が一体となり支えあえるよう連絡、報告、相談を密にとるよう努力している。ご本人と家族様の関係が途切れないうよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	関係性を保つため面会の際は各自室で自由に過ごしてもらうようになっている。家族様の許可がある限り知人の方でも面会をして頂けるよう努めている	10年以上入居されている方が多い事業所で、小学校へ出かけた時、子供の親が利用者に話しかけてくれる。また、事業所が分かりにくい住所にもかかわらず、なじみの方々が沢山訪問し、馴染みの関係が保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や気質を職員全員が把握し入居者同士が支えられる関係を築けるよう環境作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもこれまで培った関係を大切に他のサービスを利用する場合は関係各所と連携を取りフォローが行えるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族様の話を傾聴し意向の把握に努めている。話しやすい雰囲気や環境作りにも努めている。意向の表出が困難な場合は表情や生活歴などを元に汲み取る努力をしている	職員は、月1回はゆっくりと利用者一人ひとりと話したり、1日1度は利用者全員と話す努力をしている。また居室担当からの話を「コンプラ委員」綴りに「利用者の要望」として記録に残し、それを全体会議で話し合い共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の生活歴や暮らし方生活環境を傾聴し職員全員周知できるよう努めている。また入居前の情報など関係各所の方から情報共有すると共に連携を取るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の思いを汲みとり過ごしやすい環境にできるよう支援に努めている。日頃からヒヤリングを行い個々の心情など汲み取り「出来る力」や身体状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題、問題点を会議で職員全員で検討しご家族様の意見を反映し随時計画書の作成に努めている。モニタリングは1か月ごとに行いご家族様にも内容を把握してもらい理解してもらえるよう努めている	日々の支援をタブレットへ入力するとケアプランのどれにあたるか自動的に分かり、一人ひとりの支援や目標が確認しやすくなっている。また全体会議での話し合いや日々の申し送りから介護支援専門員も情報を共有、次へのケアプランに活かすことができ、家族への理解も得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の行動や健康状態は個別に記録し気付きはレポート、ノートなどに記載し介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と密に連絡を取り随時対応できるよう努めている。またご本人の意向や家族様の都合を考慮し対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校と交流があり運動会等に招待してもらっている。避難訓練などの行事にも参加して頂けるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の担当医が24時間体制のオンコールをして頂いている。また相談にも随時対応していただき連携を取りながら支援している	入居時にかかりつけ医から事業者の協力医に変更される説明をし納得されている。協力医は月2回の往診があり、歯科医は口腔ケアに月1回訪問されるが先生自らの体操・嚥下体操なども丁寧にされ、利用者の歯の健康が保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週利用者様の健康管理や助言を下さっている。また医師との連携も行い対応できるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時は主治医からの情報提供書や介護サマリなど必要な情報を提供しスムーズな受け入れ態勢の確保に努めている。入院中も経過を把握すると共に関係各所と連携を継続し早期退院が出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての事業所の方針を説明し十分理解して頂いてから同意を得るようにしている。入居者様においては状況変化に応じて逐一主治医やご家族様に情報提供を行うと共に対応や方針について話し合いできる限りの支援が出来るよう対応し努めている	入居時に看取りの話をし理解頂いており、主治医・看護師・職員体制も連携が取れ、職員は終末期についての研修も行っている。3日前に終末を迎えた方がみえたが、医師・職員・家族の連携のもと穏やかに納得のいく最後を支援する事が出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署の指導を受け心肺蘇生やAEDの講習を受けている。勉強会において緊急時の対応の話し合い職場での実践に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に消防訓練を行う中で市職員や地域包括の職員、民生委員、自治会、地主の方にも参加頂き協力体制に努めている	今年4月に夜間(深夜3時頃)を想定した避難訓練を実施した。居室にて休んでる利用者をごのりから起こすか、どの動線で動くかなど実施し、普段からの訓練の重要性を学んだ。備蓄は全員分の寝袋まで準備し万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一個人としての考えを元に大切に支援している。日々の業務の中でも利用者様ごとに支援内容や介助の仕方を変化させることで個人のほこりやプライバシーを損なわないように工夫している	利用者から「教わる」と言う心がけを常にし、言葉遣い等にも気を付けたり、自分がされたくない事はしない等を心に留め、一人ひとりの気持ちや行動を尊重している。家族の同意のもと、日中、全居室のドアは風通しの為に解放しているが問題は起こっていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気づくりに努め、個々に関わる時間を作り希望や思いが表出しやすいよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思に任せて自由に過ごしてもらっている。レクリエーションの参加など無理強いせず普段の会話の中から思いを把握できるよう努め支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には大きな鏡があり整髪料やくしなど用意してあり自由に整容する習慣ができている。自律動作が困難な方に関しては職員がその人らしい身だしなみができるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けなどできる事を手伝ってもらい職員と一緒にすることで食事に対する楽しみを増やしている。又食事が美味しく頂けるよう食事前の嚥下体操を継続している	食事は献立が決まっているが近所からの頂き物がある時や、TVの料理を観てメニューを変更したり、おやつも事業所で自由にできたり等、利用者の事を中心に考え食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様全員の1日の食事摂取量や水分摂取量の平均値を把握しており、利用者様の健康管理に努めている。また利用者様の嚥下の状態に合わせて提供の仕方を柔軟に変化させるように取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、月1回の歯科衛生士による個別指導を受けながら個々に応じた口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えがないご利用者様も立位が可能な限り排泄パターンに合わせてトイレに誘導している。衣類の上げ下ろしなど介助なるべくトイレを使用できるよう支援している	「ぐっすりプロジェクト」により日中の行動を多くしたり、腸の運動などを毎日行い排泄のコントロールや便秘の解消が出来るようになった。また職員もパットを当て利用者の不快感を実感し、利用者一人ひとりにあった使用方法に変更し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が勉強会を開催し水分摂取や運動、入浴等が便秘に及ぼす影響を理解している。最近便コントロールがうまくいっておりほとんどの利用者が自然排便が出来ている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴温度に関しては高齢者に負担がかからない温度に設定しているが入浴の長さは個人の好みに合わせている。入浴拒否などがある場合でもいつでも入浴できる体制を整えている	週2回の入浴で、現在は全員が個浴であるが他の日への希望にも応じる体制は整っている。隣には特浴もあり終末期でも対応できる。入浴支援の時は利用者との会話もじっくり聞け、希望や要望なども分かり貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なシーツ交換や布団干し、毎日のベットメイキング等を行い気持ちよく休息できる就寝環境の整備に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルの中に服薬情報を取り入れており職員全員が把握できるよう取り組んでいる。間違いがないよう勤務交代時には必ず服薬チェックを行い誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は個々の能力を把握しており利用者様の能力に合わせた役割を担ってもらうことで責任感ややりがいを持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時には積極的に短い時間でも散歩などできるよう努めている。また要望など有れば買い物やドライブなどできるよう対応している	家族との外出は食事・墓参りなど楽しんでおり、事業所としては春の桜まつりを最大のイベントとして利用者も職員も楽しみにしている企画である。外出が難しい時は施設内でのレクリエーションを沢山企画し実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭管理は困難な為家族様同意の元立て替えという形を取っている。またレクなどを行い付き添いの元買い物を楽しめるよう努力している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙のやり取りは自由であるがご家族の事情もある為事前に相談・報告をしスムーズに連絡が取れるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて四季を感じられる空間づくりを心掛けている。昼夜の照明の光調やエアコンによる室温調整を行い居心地の良い空間づくりを心掛けている	居室・フロアー・台所・浴室・トイレなどの位置がスムーズな動線になっており、ソファの配置など、快適に過ごせる共有空間である。居室がすべて映る大型の鏡が洗面台の上であり、口腔ケアや手洗いなどの支援中も鏡で他の利用者の様子も分かる。職員による折り紙や似顔絵なども飾り楽しい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭やソファなど共有スペースをうまく利用し利用者様同士居心地のいい空間作りを工夫を凝らしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の居室においてはご家族様の写真を飾ったり、花や人形など個人の趣向に沿った居室づくりを行っており穏やかに過ごして頂けるよう配慮している	居室はきれいに掃除され匂いもなく清潔も保たれている。利用者・家族の希望で、床に布団を敷いて居心地よく過ごせる居室もある。居室の入口や室内には沢山の写真が貼ってあり、笑みが自然とこぼれる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物屋内は基本的にバリアフリー設計で高齢者が過ごしやすい作りになっている。トイレや入浴場等には分かりやすい表式を活用し利用者様の身体状況に合わせて個浴、寝浴が使い分けれる作りになっている		